吉野歴史資料館だより

たぎつみやどころ

第5号
（通算第8号）

宮滝の河原で宴会を楽しむ古代の人々（早川和子氏作）

宮滝遺跡のこと、イラスト交えて大紹介！―「宮滝遺跡の成果と吉野町内の関係地」

吉野歴史資料館とコロナ対策

新型コロナウィルスの感染症拡大に伴い、大変な日々が続いています。

吉野歴史資料館も5月末まで休館し、ようやく6月から土日祝日のみの時短開館として再開いたしました。現在も、ご入館の際はマスク着用や検温にご協力いただくなど、ご不便をおかけしております。

病気対策といえば…、本紙創刊号（通算第4号）で奈良時代の疫病と吉野のことを、馬場 基さんにご紹介いただいておりました。この記事にあやかりまして、聖武天皇が、疫病退散を吉野で願ったように、吉野から皆様の無事平穏を祈念申し上げます。

西谷の古文書調査が完了

龍門騒動200年をきっかけに、吉野町では西谷自治会所蔵の古文書調査を行ってきました。この度調査が完了し、報告書を刊行いたしました。報告書名は、『西谷自治会所蔵文書調査報告書』。町図書室、吉野歴史資料館、役場文化観光交流課でご覧いただけます。

調査に関わっていただいた皆様、そして、ご協力いただいた西谷自治会の皆様に厚く御礼申し上げます。 ※販売は行いません。

吉野歴史資料館HPでも、宮滝遺跡の情報など発信中！
資料館HP（短縮URL）：https://bit.ly/2LlMsNm

たぎつみやどころ　第5号　令和2年10月20日発行
【編集】吉野歴史資料館　奈良県吉野郡吉野町宮滝348　※現在は土日祝日のみ開館。お問い合わせは吉野町文化観光交流課へ。
【発行】吉野町文化観光交流課文化財保存活用室　奈良県吉野郡吉野町上市80－1　☎:0746-32-3081　mail:bunkazai@town.yoshino.lg.jp

資料館HP移動用QRコードはこちら↓

宮滝遺跡の復元想像図、完成

おまたせをいたしました、宮滝遺跡特集号です。

前号まで、少しづつ宮滝遺跡の情報をお伝えしてきましたが、やっぱり図面だけでは分かりにくい事と思います。

そこで、考古学イラストレーターの早川和子氏に宮滝遺跡の復元イメージを描いていただきました。今号では宮滝遺跡の復元イメージをふんだんに使い、最近分かってきた宮滝遺跡のことをお伝えします！

近年確認された宮滝遺跡の大型建物復元イメージ

令和２年度開催予定・開催済の文化財関連事業・イベント等

【注意！】ここで掲載しているイベントは、新型コロナウィルス感染症拡大の状況によって、開催内容等が変更となる場合があります。事前にお問い合わせをいただきますと幸いです。

資料館で開催中の展示

・まんがでひたろう！吉野の記紀・万葉と歴史
日にち：令和2年3月1日～11月末日

連携講座

《with 近鉄文化サロン阿倍野》

・修験道以前の吉野と山の信仰
講師：松田 度氏（大淀町教委学芸員）
日時：令和2年9月19日（土）10時30分～

・吉野山と太平記～「吉野城軍の事」を中心に～
講師：田中岳良師（芳山一佛堂住職）
日時：令和2年9月26日（土）13時30分～

・吉野宮（宮滝遺跡）の実像 －私見－
講師：竹田正則氏（橿原市教委文化財課長）
日時：令和2年12月19日（土）10時30分～
※いずれの回も開催場所は近鉄文化サロン阿倍野（あべのand店内）。1時間30分程度。

宮滝を楽しむ関連ツアーのご紹介

《吉野ビジターズビューロー主催事業》

・「壬申の乱」出陣の道を歩く
日時：令和2年11月7日（土）
内容：宮滝～国栖ウォーキング

・吉野宮滝遺跡に学び、そして楽しもう！
日時：令和2年11月8日（日）
内容：トークイベント、体験型イベント

◎募集人数は各30名。事前予約制。有料です。
◎お申し込み等は吉野ビジターズビューロー（電話：0746-34-2522）まで。

その他のお知らせ

宮滝遺跡の町内外のつながり（補足）

2～3頁でご紹介したように、宮滝遺跡は吉野町内全域、さらには吉野町外にもゆかりのある場所がたくさんあります。例えば、下のイラストは、宮滝遺跡にかかわりの深い、壬申の乱ゆかりの場所を記した鳥瞰図。こうしたイラストを活用することで、宮滝を起点とした町内外のつながり促進が期待できます。

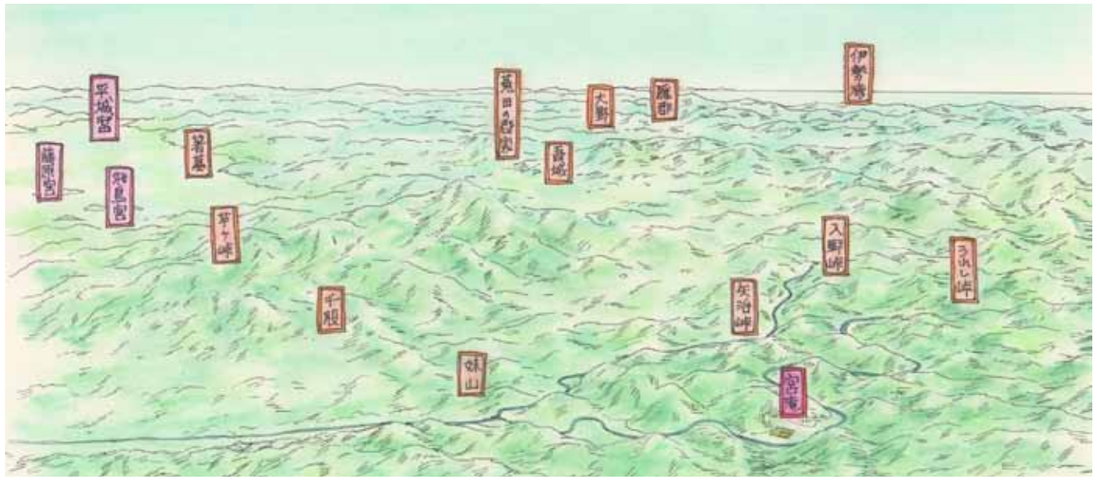
【速報】吉野山で縄文土器？

昨年度、吉野山奥千本で資料館職員が縄文土器を採取しました。滋賀里～篠原式（縄文時代晩期）の一部と考えられます。大雨等で崖の上から落ちてきたのでしょうか。吉野山で縄文土器が確認されたのは、今回が初めてです。今後、さらなる発見が期待されます。

吉野が紹介されました！

左記の刊行物等に記事や写真を提供しました。

・雑誌・『月刊大和路ならら』（9月号）
・本・『日本の古代史 発掘・研究最前線』
・アプリ・奈良遺跡めぐり
・全国こども考古学教室（https://kids-kouko.com/）
・特別展・「マンガで語る古代大和Ⅲ 持統天皇をめぐる物語」（奈良県立万葉文化館）
・TV・英雄たちの選択～持統天皇（NHK）
・ツアー・持統天皇の物語 藤原京から吉野宮へ（吉野ビジターズビューロー） ほか



【こんなイラストも！】吉野山付近上空から見たパノラマ鳥瞰図。壬申の乱ゆかりの地が一望できます。

【資料紹介】

宮滝遺跡の成果と吉野町内の関係地

吉野町文化観光交流課　中東　洋行

◇ 吉野宮と宮滝遺跡

吉野町宮滝にある宮滝遺跡は、およそ1300年前の離宮（りきゅう）・吉野宮（よしのみや）の跡地と考えられています。宮滝が吉野宮跡だと言われるようになるまでには、江戸時代以来の長い調査と研究の歴史がありました。事実、今日のように「宮滝遺跡＝吉野宮跡」が定説になったのは、平成になってからのことでした。

なぜ、吉野宮の場所がわかるまでに、これほど時間がかかったのでしょう。それの原因の一つに、『日本書紀（にほんしょき）』などで、吉野宮の詳しい記録が残されなかったことがあげられます。正確に言えば、『万葉集』には周辺の地名が若干載っていたのですが、似た地名が各地にも残るため、場所の特定ができなかったのです。

吉野宮に関して残されている記録は、次の3つ。①飛鳥時代に斉明（さいめい）天皇がお造りになって以降、天武（てんむ）天皇、持統（じとう）天皇、元正（げんしょう）天皇、聖武（しょうむ）天皇と歴代天皇の行幸があったこと。②壬申（じんしん）の乱やいわゆる吉野の盟約”といった歴史的な事件が起こった場所であること。そして、③『万葉集』にのる歌がたくさん詠（よ）まれた場所であること（県内第3位！）、です。そう、離宮が置かれた詳細な場所も、建物の数も名前も、どんなことが行われていたのかも、記録に残らなかったのです。

◇ 宮滝の調査と復元想像図

今日、さまざまな調査や研究が進み、“宮”や“離宮”がどのような建物配置だったのか、ということが分かるようになってきました。

また、宮滝遺跡でも発掘調査が進み、1300年前にたくさんの建物やお庭の池のようなものがあったことが分かってきました。そして、前述の調査・研究成果と比較すると、宮滝では少なくとも一度、施設が大きく造りなおされていたことや（図1で造りかえ前の建物などを水色、造りかえ後の建物などを橙色で示しています）、吉野町が宮滝遺跡の整備をしようとしていた場所が、造りかえ後の吉野宮の中心部だったらしいことが分かってきたのです。

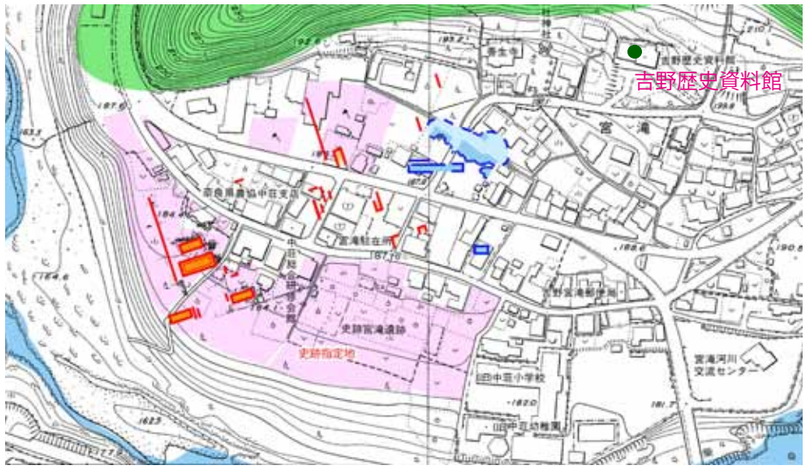


図1　宮滝遺跡の調査成果概要（水色が古代1期の遺構、橙色が古代2期の遺構）

こうしてわかってきた成果をもとに、さっそく考古学のイラストを描いている早川和子先生にお願いして、1300年前の（造りかえ後の方の）宮滝遺跡の復元想像図を描いてもらいました（図2）。

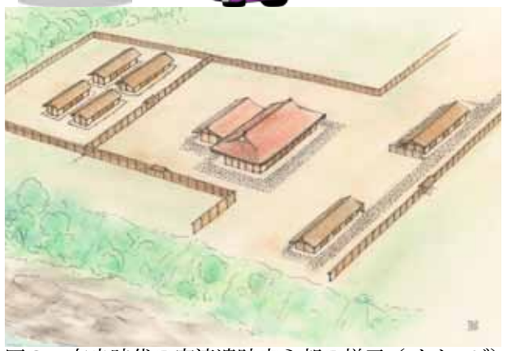


図2　奈良時代の宮滝遺跡中心部の様子（イメージ）

図3　宮滝周辺の位置関係図

宮滝に大きな建物がたちならび、貴族の人たちが歌などを詠んで遊んでいる様子を感じていただけますでしょうか。

◇ 宮滝は町内全域につながる！

こうして宮滝遺跡の様子がわかってくると、ほかに吉野町内で宮滝遺跡に関係する場所がないのかが気になってきます。調べてみると、やっぱり見つかりました。天皇が飛鳥から宮滝へお越しになる時につかったという芋ヶ峠。大海人皇子の伝説が残る金福寺や桜木神社、浄見原神社に国造（くにつくり）神社。大海人皇子（後の天武天皇）が天女の舞をみたという袖振（そでふり）山に衣笠（きぬがさ）山。『万葉集』の歌が詠まれた六田の淀、青根ヶ峰、象山（きさ）、三船山に夢のわだ！吉野町内ほぼ全域につながりがみえてきたのです。

図4　吉野町内で吉野宮に関係する主な場所

これは私の個人的な夢ですが、宮滝遺跡の整備完了後、古代のロマンをめぐる町内全域の観光網ができたらいいなと思っています。夢広がる宮滝遺跡。夢が夢で終わらないよう、まずは遺跡の整備を頑張らないといけませんね。

【参考文献】
奈良縣吉野郡役所編 1919『奈良県吉野郡史料』3
桜井満ほか編 1990『吉野の祭りと伝承』桜楓社
国栖奏保存会 2004『国栖奏』